



やなぎた くに お 柳田 國男



今年(2025年)は、民俗学者「柳田國男」生誕150年です(1875年生まれ)。
柳田國男は1908年、政府の役人をしていたころ、東臼杵郡椎葉村を訪れました。そこで、ある邸宅に代々伝わる文書「狩之巻」を見せてもらったり、集落に伝わる狩りことばや狩りの作法などを聞き、大変興味をもち帰京しました。その後、当時の椎葉村長にこれらを分かりやすく書きおこしてもらい、それらをまとめて出版したのが「後狩詞記」です。柳田國男の初期の一作で、日本の民俗学の出発点ともいわれています。

博物館の民俗展示室には、椎葉村で採集された資料を含め約1,000点以上の展示物があります。古くから受け継がれてきた物や道具が、生き生きと暮らしの中にありました。近くて遠い先人達の生活に思いをはせてはいかがでしょうか。

分布から見た宮崎の植物



自然史展示室の「宮崎の植物」のコーナーでは、県内に自生する代表的な植物の分布の様子や特徴をレプリカ資料とともに紹介しています。

宮崎県には、暖かな日南海岸から標高1,700mをこえる冷涼な山岳地帯まであり、植物をとりまく環境は複雑で多様なため、自生する植物も多種多様です。例えば、樹高40mになるコウヤマキ(1科1属1種)などの日本固有植物のほかに、今よりずっと寒かった氷期に、北国や中国大陸東北部

の寒い地方から南下してきたと思われる植物や中国大陸中南部・ヒマラヤ山麓と共通分布する植物もあります。宮崎の大地は、温暖な地域から冷涼な地域に分布する様々な植物たちで構成されています。

博物館クイズ

宮崎県の海岸にはクジラの仲間が打ち上げられる(ストランディング)ことがあります。平成26年には川南町にマッコウクジラが流れ着きました。この流れ着いたマッコウクジラの大きさが分かるかな？

- ① 60cm ② 16m ③ 160cm



u9l ② :々景

